

佳作

最高の思い出になった卒業式

山形県 南陽市立宮内中学校一年 安部 杏香

「喜びとお祝いの言葉。」

式の進行の先生からそう言われ、私たち卒業生は、ひなだんの上へのぼりました。ここでの歌や呼びかけが終わると、卒業式は終わってしまいます。初めに、在校生からの呼びかけです。一年生から五年生まで学年ごとにちがった呼びかけがあり、共に活動したことなどを思い出しました。一年生の呼びかけが、はく力があり、色々教えたことについての感謝の言葉や気持ちが表示され、一人一人がしんけんに言っているのを見て、心にぐっときました。そして、四月五月の最初のころに比べ、成長したなと思いました。在校生全員で言うところも、体育館中にひびいていて、さらにうれしくなりました。歌では、その曲の感じや歌詞で、小学校を出たくないという気持ちやさみしさでいっぱいになりました。指揮をす

る先生の方を見て一生懸命歌う在校生の姿を見ると、感動しました。

次は、私たちの歌と呼びかけに入ります。呼びかけは、六十三名全員が言います。私は、

「仲間と、同じ時間を過ごす喜びを、感じました。」というセリフを言いました。練習の時にはいつも先生方がおっしゃっていたことがありました。それは、この言葉を伝えたい人をイメージして言うことでした。本番では、そのことを頭に入れていたものの、きんちようのあまり、練習の時よりもしっかりとはイメージ出来ませんでした。でも、気持ちをこめていいねいに言ったので、伝わったと思います。最後の言葉の「旅立ちます。」をみんなで、今までよりも最高の声で言いました。言い終わった時には、もう、涙が出そうでした。歌では、『3月9日』を歌いました。初めの方は感謝の気持ちを表し、強弱を意識しながらいつもどおり歌っていました。ですが、歌っていると中に指揮の先生が泣きそうな顔になり、自分の前の人、近くの人が泣いているのを見て、もう終わってしまうのだと思い、悲しくなり自分も泣いてしまいました。練習のように歌えなかったけれど、この気持ちはしっかり伝えられたと思

うので満足しています。次は宮小生として在校生のみんなと最後に『旅立ちの日に』を歌いました。涙が止まらなくて、いつものような声が出せなかったけれどみんなで歌えたという最高の思い出が出来てうれしかったです。なので、泣いて、思うように歌えなくても気持ちは伝えられたのでいいはありません。卒業するのはさみしかったけれど、祝賀会が終わった時には、先生方、転校して別の学校に行ってしまう友達と、笑顔でお別れをしました。顔が暗いままお別れするのはいやだったからです。

人生は一度きりしかありません。なので、くいの残らないように、一日一日を大切に過ごしていきたいです。